

緑の相談所だより

-第30号-

{10.11月号 1994.9.30発行 編集：旭川市緑の相談所}

花芽をつける管理

※クジャクサポテン, シャコバサポテン
金のなる木など

日時 10月9日(日) 午後1~3時

講師 旭川市緑の相談所相談員
村田正一

定員 50名

上手に花を育てるために
その故郷を知ろう
(世界の気候区と植物の分布)

日時 10月23日(日) 午後1~3時

講師 道立旭川農業高等学校教諭
本郷仁氏

持ち物 2色以上のボールペンか色鉛筆

定員 50名

講習会

洋らん
秋~冬の管理

※シンビジューム, デンドロビューム
カトレア, フアレノプシスほか

日時 11月6日(日) 午後1~3時

講師 旭川洋らん会副会長
笠原幸三氏

定員 50名

庭の整理と
冬囲い

※病虫害の越冬個体を残さないために
必要な冬囲いの方法

日時 11月27日(日) 午後1~3時

講師 旭川市緑の相談所相談員
小島博昭

定員 60名

いずれも参加料は無料

■お申し込み・お問い合わせ 旭川市緑の相談所 ☎ 65-5553

美女もミイラも木の香り

古代の人々は香木、香料をたき、神や仏に祈りを捧げ、立ち昇る煙に願いをこめました。古代エジプトのミイラ作りには、香料は欠かせないものでした。アフリカ東北部に生育するモツヤクノキの樹脂である**没薬**(もつやく)は、強い防腐効果をもつので**百種**(ひゃくしゆ)などの香料とともに使われました。

乳香(にゅうこう)は、アラビア、インド、アフリカ東北部に生育する乳香樹の幹に傷をつけると浸出する乳白色の樹液が固まった芳香性ゴムの樹脂です。

芳香性樹脂に油脂を混ぜ合わせた香油は、当時化粧品としても使われ、没薬や乳香を主体とする香油が特に多く使われて、ツタンカーメン王の墓を発掘した時棺の中にあつた香油の壺のふたを開けると、ほのかな乳香の香りが漂つたということです。

なんと三千年もの間、香りを保ち続けていたのです。

千三百年を経た法隆寺のヒノキの柱が朽ちずにいるのも防腐成分を含んでいるためですが、カンナで薄く削ると今なおヒノキの香りがするといいます。



の

は

な

し

わが国の香料の最古の記録は、推古天皇の時代に**沈香**(しんこう)が、淡路島に漂着したという日本書紀の記述です。

沈香は、インド、東南アジアに生育するジンチョウゲ科のジンコウジュが傷ついたり倒木になって腐朽菌に侵されて、樹脂分が異常に多くなったものです。

この朽ち木は樹脂含量が高く、比重が大きくて水に沈むので沈香と呼ばれています。

鎮静、解毒、健胃作用があり薬用としても利用されています。

沈香や**百種**(ひゃくしゆ)などの香をたき香りをかぎわける**聞香**(もんこう)が、不安緊張感などのストレスからくる病氣治療に効果があるといわれています。

◆薬として利用されていた古代の香り◆

香り	作 用
没薬	抗菌 鎮静 抗炎症 健胃 去痰
乳香	消化促進 利尿 解毒 消毒 鎮静
沈香	鎮静 解毒 健胃
白檀	抗菌 鎮静
肉桂	健胃 駆風 解熱



重い木

ギネスブックには南アフリカにあるブラックアイアンウッド(モクセイ科、オリーブの仲間)で、比重1.49とされています。

軽い木

バルサ(ワタノキ科)で気乾比重0.16。キリが約0.30。これよりさらに軽いのがマメ科のエスキリメネ属の木材で、なかでもキューバ産のヒスピダという種類は比重0.04。

🌱 10月の園芸作業

1. 春植え球根の掘りあげ

ダリヤ、グラジオラスなど、霜で枯れたら掘りあげて保存します。

ダリヤは茎を切り取り、球根を傷めないように土を付けたまま掘りあげ、ざっと一日乾かします。球根が干せないよう土つきのままダンボール箱か発泡スチロールの箱に入れ、5～8度くらいの所に保存します。来春、芽が動き出したら切り分けます。

グラジオラスは掘り上げてすっかり乾かします。乾いたら紙袋か網袋に入れて凍らない程度の所に保存します。

2. 秋植え球根の植えつけ

チューリップ、クロッカス、アリウム、ヒヤシンス、スイセン、ユリ類、球根アイリス、スノードロップ、シラーなど、今月中に植えつけます。

植える深さは、上に球根が2～3個乗るくらい、間隔は間に3個はさまるくらいにします。

ユリ類は少し深めに植えてください。ユリのカサブランカは半日陰に植えるといいでしょう。

3. 低温に合わせるもの

・クンシランは低温に会わないと花茎が伸びません。8～10度くらいの温度に1月半くらいあわせてください。

・アザレヤも10度前後の温度に合わせると蕾が休眠から覚めます。その後18度前後の所で、水やりを十分にしておきます。

・ツバキは初雪が降るころまで外に置き、その後暖房のない低温の所に置きます。乾ききらないうちに水やりと、毎日、木全体に霧水をかけて蕾が落ちるの防ぎます。

・デンドロビュームは、13度以下の低温に20回くらい合わせると花芽の元ができます。水やりは半月に一回くらいにして、花芽がでるまではかなり乾き気味にしてください。

🌱 11月の園芸作業

1. 観葉植物

朝方、室内の最低温度が15度以上保てる場合は、土の表面が乾いたら鉢底から流れ出るくらいたっぷりと水やりします。週に1回くらい液肥も与えます。

最低温度が10度以下になる場合は、土が乾いてから3～5日くらいたってから水やりします。肥料も施しません。

暖房が入ると空気が乾きますので、木全体に霧水をかけてやるといいでしょう。

2. 鉢花

・高温を好む種類、ハイビスカス、ゲンペイカズラ、ポインセチヤ、ランタナなどは朝方の最低温度を15度は保ちたいものです。その場合、水と肥料は続けて与えます。最低温度が10度以下になる場合は、乾いてから数日たって与えます。生長が止まっているので肥料は施しません。

アマリリス、カラー、グロキシニヤ、カラジュームは、やや低温の所に置き、水やりを止め、乾かして球根を休眠させます。凍らない程度の温度で冬越しし、来春新しい土で植え替えてやります。

球根ペゴニヤは短日になると咲かなくなります。上記のものと同じようににして冬は休眠させます。

・つぎつぎと休みなく花を咲かせているものは、体力を消耗するので、週1回1000倍にとかした液肥を施します。花の咲きがらはその都度摘み取っておきましょう。

3. オモト

低温には強いものです。冬は5度くらいの所で休眠させておきましょう。暖かい所では葉がもやしになりますし、翌年の生長も良くなりません。室内に適当な所がない場合は、庭に鉢がすっぽりと入る深さに穴を掘って入れ、雪が入らないように板をかけて冬越しします。

秋の庭仕事

10月から11月の降雪期までの「庭仕事」はいろいろあります。

ゆっくりと正常な状態で越冬させ、来年も楽しめるような庭木を作るための秋の作業は次の通りです。

●庭の整理●

今年の夏は高温続きで色々な病虫害が多発し、庭の中には病虫害の越冬個体を残さないようにするためにも、秋の庭の整理は欠かせない作業の一つです。

▲落葉、落枝、落果などは焼却するか、他の方法で処分します。

●秋の剪定●

原則的には落葉するもの（広葉樹類）について剪定をおこないます。

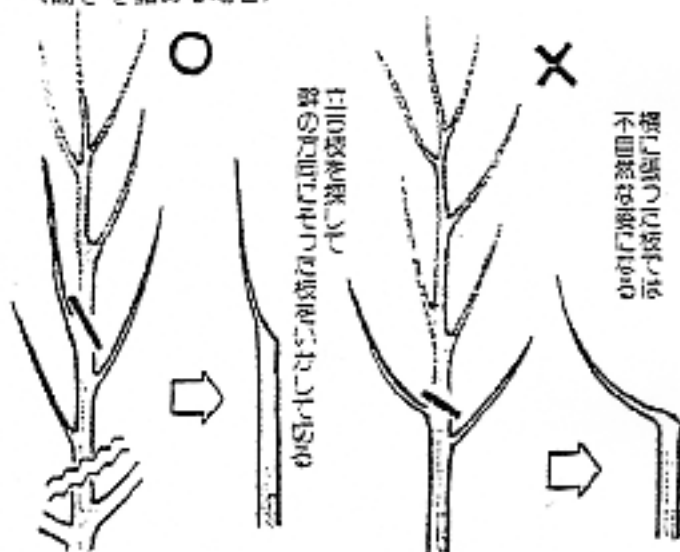
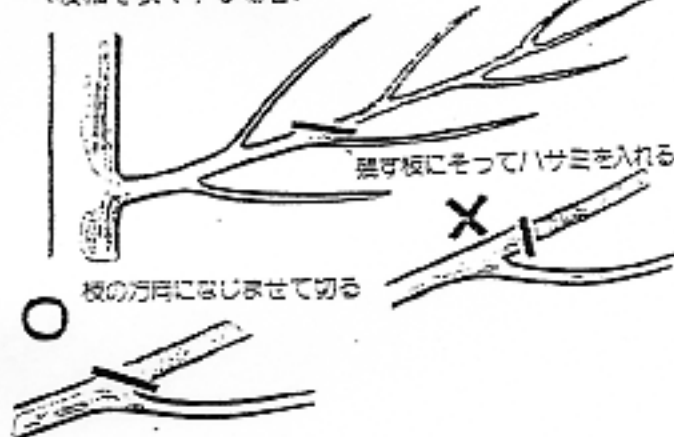
常緑（針葉樹類）のものについては切り詰め剪定程度にとどめます。

▲広葉樹類…サクラ、カエデ類、シャラノキ（ナツツバキ）など。

切り戻し剪定のやり方

枝の分かれているところで、弱小枝を強して強い枝を切り捨てるのがポイント
〈高さを詰める場合〉

〈枝幅を狭くする場合〉



●秋の薬剤による防除●

休眠期（広葉樹類は落葉）に入るまでは生育期に使う薬剤を使用して防除をおこない、完全に休眠期に入ってから降雪期までの間に「石灰硫黄合剤」10～30%くらいのものを使って防除します。

ツツジ、シャクナゲ類については散布液が庭土に落ちないように方法で散布します。

（例えばビニールを敷くか少なめに散布）

●冬囲い●

冬囲いは出来るだけおそくにおこなうのが良いでしょう。

庭木類の生育期や休眠直後あるいは気温が7℃～8℃以上の時期に冬囲いをおこなったり、囲ったままにして置くとムレることがあります。

冬囲いは雪が降り始める時期に入ってもおそくないことを頭において作業することが大切です。